

校長ニューズレター（第9号・12月号） 宜野湾市立長田小学校校長：横山芳春



授業と生徒指導

不幸な事件が、再び起こった。亡くなった少年とそ
のご家族に、謹んで哀悼の意を表したい。

現在、県内あげて二度とこういっただけ事件がないよう
に、対策を図っているところだ。

学校でやらなければならないことは何であろうか。
一般的に、仕事は大きく分けて「予防」と「事後処
理」がある。予防をしっかり行っていけば、事後処理
をしなければならないような事は減少してくる。反対
に、予防が十分でない場合、事後処理は増えてくる。

本校では、11月24日に横須賀薫先生（宮城教育大
学名誉教授）を招いて、講師招聘研修会（今年5回
目）を開催した。午前中は、総合表現の指導、午後は
研究授業と研究協議を行った。

研究授業の授業者は、30歳代のがんばり屋A先生。
教材は国語・詩教材「ミミコの独立」（山之口獏）。授
業は、この詩のなかで「独立」というたいそうな言葉
が使われている理由を追求し、父親の娘に対する思い
を理解する展開であった。横須賀先生が授業の途中で、
応援に入った。子どもたちの思考を促す発問を横須賀
先生が発し、授業が動き出した。

授業後の協議で横須賀先生が次のような指摘をさ
れた（指摘は、A先生だけの問題ではなく本校の全体
の課題であると、校長である私は考えている）。

「（研究授業を見て）授業づくりの一番難しいところ
にさしかかっている。A級の授業をどう創っていくか
という段階。（現段階では）”正解の飛び石伝い”になっ
ている。正解（子どもから出させて）→正解（子どもから
ださせて）→正解（子どもからださせて）というように
一つの疑問点について、正解が出たところで順々に次の
疑問点に移るといって平板な展開になっていて、思考に深
まりのないものになっている。A級の授業へどう創り変
えていくか・・・

A級の授業にしていくには、「学級全体で思考させられ
るかどうか」に係っている。今日の授業では、授業に参
加していない子たちがいた。教材の追究をとおして、
学級全体が触発し合いながら思考していたかどうか。
ここが大きな課題。授業に乗り切れない子が一番気
になる。ここを動かすことが必須。

教師の発問のあと、一人の子どもの発言に対し、教師
がその発言を受け取って、その子どもの発言を学級全体
の問題として返していく作業が必要だ。

教師が、詩のなかの『ぼくはその場面を見て言ったが』
の『ぼく』とは誰のことか、と問うたとき、一人の子
どもが『にいちゃん』というひとつの考えを出した。この
問いの追求においてはここで終わってはいけないもの
だ。

教師は、「根拠は何か？この詩のどこから『にいちゃ
ん』と思ったか」と、問い返す必要がある。理由・根拠
を聞いておくこと。これが、“独立”という言葉が作者が
使った意図解明への布石になる。

もうひとつの学力問題は、授業に乗りきれていない
（参加していない）子どもたちを乗せること（参加させ
ること、底上げすること）。

「ある特定の子どもだけが終始発言し授業の主役にな
っているような授業ではなく、学級のすべての子ども
が自分の考えを出し合うことをとおして授業に参加し
ていく営みが、授業における『民主主義』である、と言
うことができる」

この指摘は、日ごろから考えていることを力強く後
押ししてくれる結果になった。

それは、授業という営みは、「学力向上はもちろんの
こと、生徒指導上の仕事も同時に兼ねているのだ」
ということ。

（先生をふくめた）クラスの全員が、真理を追究し

ていく質の高い授業を行う。この過程をとおして、子どもたちはお互いを認め合い、協力し合って、学びあうことの重要性を理解する。それは、人間関係の学びでもある。このような授業をおこなうことが、生徒指導上の問題を起こさせない(学校が行う) おおきな予

防になるということだ。このような質の高い授業を学校が常に行っていくことが、学校がおこなう最大の仕事のひとつだと考えている。学校挙げて、質の高い授業を創造していきたい。

長田小PTA主催 講演会のお知らせ

演題:『子どもの可能性を伸ばす授業と家庭学習』



講師:川嶋環先生(長田小学校共同研究者)

場所:長田小体育館

主催:長田小PTA

対象:長田小PTA

費用:無料

日時:12月21日(月)午後7時30分~8時45分

子どもの可能性を開きのぼすための家庭と学校の役割は?

生きる力・学力はこうして育てる!